

To the NextStage

～四中前進！「学び」で一歩一歩のNextStageへ～

8月号A面

8月29日発行



四中生！全国・東北のNextStageへ！ トップレベルの景色から学ぶ!!

★全国5位！東北優勝！

柔道55kg級！

宇田 晴哉（3-2）

★全国8位！水泳200m個人メドレー！

松坂 琉星（3-3）

★東北3位！陸上800m！

井藤 慶（3-1）

東北大会、全国大会の戦績です。四中生が、より高いレベルのNextStageで活躍してくれている姿は、四中に関わる人はもちろん、地域の方にも元気を与えてくれます。先輩に続いて1，2年生は新人大会等で活躍してくれることを期待しています！

全国・東北大会出場 選手の「学び」

◎全国大会

柔道競技

・男子55kg級 宇田晴哉（戸沢道場） 第5位！

水泳競技

・男子200m個人メドレー 松坂琉星 第8位！

・男子400m個人メドレー 松坂琉星 予選落選

陸上競技

・男子共通800m 井藤 慶 予選落選

◎東北大会

柔道競技

・男子55kg級 宇田晴哉（3-2・戸沢道場） 第1位！

水泳競技

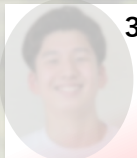
・女子200m個人メドレー 後藤由奈（3-2）17位予選落選

陸上競技

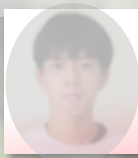
・男子共通800m 井藤 慶 第3位！



3年宇田晴哉さんの「学び」です。
「県大会前から東北大会優勝、全国大会上位入賞という目標をもって、つらい練習を乗り越えることができ、目標を達成することができました。何事にも目標を持つことが大切だと学びました！」



3年松坂琉星さんの「学び」です。
「3月の全国大会で4位入賞し、気持ちが緩んでしまった。この緩みが今回の結果となった。自分の責任です。」



3年井藤慶さんの「学び」です。
「気持ちに負けないことが大切だと学びました。全国の雰囲気をも自分のものにして、レースを楽しむことも大切だと学びました。」



3年後藤由奈さんの「学び」です。
「最後まで、やりぬくことです。周りは速い人ばかりで、途中、挫折しそうになりました。しかし、東北大会は自分の目標だったため、あきらめずに最後までやり抜くことができました。」

第10回全日本中学女子軟式野球大会

2年板垣冴さん、矢萩仁菜さん、1年菊池美颯さんは山形スマイルガールズに所属しています。この大会は全都道府県代表等49チームが出場する大きな大会です。「学び」は板垣さん「強いチームと戦えるありがたさや、全国で1勝することの難しさ、大変さ」
矢萩さん「全国で1勝の難しさ、自分たちの野球をする難しさ、努力することの大切さ」
菊池さん「全国大会の庄の中での緊張の慣れ方」



10本のガーベラ＝前進!!

二学期始業式 学年代表の言葉

二学期に頑張りたいこと

私は中学校に入学してから、時間を上手に使うことがなかなかできませんでした。習い事や宿題などで毎日があっという間に過ぎていき、自分のための時間を思うように作ることができませんでした。そうした中で、自分に足りなかったことや、もっとこうすればよかったということに気づくことができました。そうした反省を生かして、私は二学期に三つのことを頑張りたいと思っています。

一つ目は学習面です。私は一学期の定期テストで、思うような結果を残すことができませんでした。特に、自分がよく分かっていないところをそのままにしてしまったことが原因だったと感じています。分からないことを分からないままにして、テストで同じ間違いを繰り返してしまったのです。二学期は、「なぜ間違えたのか」を自分で考えながら、分からないところを一つひとつ丁寧に理解していきたいと思っています。

二つ目は生活面です。私は、廊下ですれ違う先生方や友達に、自分から挨拶をすることができるようになってきました。しかし、小学生のときに挨拶をしたら注意されたことがあり、それがきっかけで、外では挨拶をするのが少し怖くなってしまっていました。でも、四中は挨拶が良い学校として知られているので、自分の失敗を引きずるのではなく、地域の方とすれ違った時には、自分から元気な声と笑顔で挨拶できるようにしたいと思います。

三つ目は生徒会活動です。私は一学期、学級委員として活動しました。毎週金曜日の学年朝会では、全員の前で発表する機会がありました。最初はとても緊張しましたが、回数を重ねる中で、準備の大切さや発表の仕方について少しずつ学ぶことができました。私はこの経験を通して、物事にしっかりと計画を立てて取り組むことの大切さを知ることができました。だからこそ、二学期はテストや提出物に向けて、しっかりと準備や予習をしていきたいと思っています。一学期の反省を生かして、自分を少しずつ成長させていけるように努力したいです。

1年2組

菖蒲 月彩

二学期頑張ること

私の二学期の目標を「文武両道」とし、達成するために頑張ることが三つあります。

一つ目は学習です。一学期の定期テストを振り返ると、私は苦手意識をもつとその教科に手を付けなくなってしまい、得意な教科と苦手な教科で点数の差が開いたことを反省しています。二学期では苦手意識を無くすために、理解できない部分を重点的に取り組み、自分で解けるようになるまで何回も勉強していきます。

二つ目は部活動です。私が所属する女子バスケットボール部は新体制になり六人で県大会出場を目標に基礎から取り組んでいます。できないことはできるようになるまで自主的に練習をし、できることは質やスピードを上げる努力をしています。しかし、私は気持ちが弱いという課題があります。二学期は日々の練習で自分の限界を決めずに、挑戦する自分でありたいと思います。そこで、疲れた時こそ誰よりも声を出したり行動を速くしたりするだけではなく、普段のあいさつや礼儀を正しくして生活の面も学校で一番の部活動にしていきたいです。

三つ目は学校行事です。特に体育祭では競技はもちろん、応援も昨年より声を出して頑張りたいです。中堅学年として、三年生のサポートをし、一年生が本気で取り組めるように手本となる姿を示していきます。また、生徒会選挙では三年生からバトンが渡されます。二年生のみなさん、私たち夢紘学年が新たな四中をつくるという自覚と責任をもって臨みましょう。

勉強・部活動・学校行事それぞれにメリハリをもってすべて全力で取り組みます。目標である「文武両道」を達成できるように、できないのではなく、自分がやろうとしなかったと考え、楽しく実りのある二学期にしていきたいです。

2年2組

梅津 心咲

二学期の抱負

私は今まで、輝いて見える人と自分を比べて、できないと思ったことは適当な理由をつけてすぐに諦めてしまう癖がありました。しかし、今年の一学期、人生で一番諦めたくないと思った出来事がありました。それは男子バスケットボール地区中総体の対天童二中戦です。一試合でも負けたら引退の、試合終了八秒前という絶望的な状況でも、コートに立っていた私たち五人は誰一人として諦めていませんでした。そして、あのプレッシャーと緊張の中でフリースローを三本決めきった滝口悠獅さんを、私は今でも尊敬しています。私はこの経験から、自分で自分の将来を諦めないよう、学習と行事の両立で自分を鍛える二学期にしたいと考えました。

まず学習についてです。二学期は大きな行事があると同時に、自分の進路を確定させる時期になります。学級や学年全体で落ち着いて学習できる雰囲気がつくれたらいいと思います。そのために、二分前ウォームアップ学習の取り組み方などを見直し、「学習は学習」「行事は行事」といったメリハリをつける力を強化したいです。そして私自身も、これまで以上に家庭学習の時間も確保したいです。

次に行事についてです。合唱コンクールでは、クラス全体が本気で練習し、それでもダメだった、そのおかげで賞が取れたと思えるようにしたいです。去年は自分がリーダーでなかった分、取り組みが中途半端でも見て見ぬふりをしてしまったことが心の底から悔しく、今年は学級のパートリーダーになりました。すると私の話を真剣に聞いて「こうしたらいいいんじゃないか」と意見を出してくれる人が増えました。直した方がいいところや続けていくところを明確にしてクラスで共有していこうと思います。体育祭では、仲間を信じてバトンをつなぎ、相手を罵るような発言を絶対にせず、どちらが勝ってもおかしくなかったと思えるようにしたいです。そのために、幹部の人だけに任せず、自分から呼びかけたり休み時間に周りの人と練習したりして、少しでも軍が一体となるように貢献していきたいです。

これらの取り組みを通して、二学期が終わる頃には、困難なことがあってもすぐに諦めるという選択をしない人間になっていきたいです。最後に、さっきの校長先生の話聞いて「私は日本一あきらめの悪い生徒」になります！

3年3組

渡辺 奏佑

天童四中だより 2025

To the NextStage

～四中前進！「学び」で一歩一歩のNextStageへ～

8月号B面

8月29日発行



二学期 始業式のことば より（令和7年8月22日）

校長 石山 重典

○7月24日の放送による1学期の終業式から約1ヶ月間の夏休みを終え、皆さんの元気な姿をみることができて、とても嬉しく思っています。暑い夏がまだまだつづいていますが、熱中症やその他の事故等のよる生命に関わるような事故がなかったことに、四中生の判断力、保護者の方のご指導、先生方のご指導に感謝します。

さて、夏休みはどのように過ごしたでしょうか。何か初めてのことや、時間がなければできないことなどに挑戦したのでしょうか。

東北大会や全国大会へ出場した皆さん、お疲れ様でした。水泳競技の後藤由奈さん、松坂琉星くん、陸上の井藤慶くん、柔道の宇田晴哉くん。（ちなみに四中の先輩も甲子園に日大山形2年の遠藤聖也くん、福島代表の聖光学院3年の菊池政善くんも活躍する姿を見せてくれました。）

戸沢道場から出場している宇田晴哉くんは55kg級県代表として出場した東北大会で優勝。陸上800m走に出場した井藤慶くんは第3位入賞。水泳200m個人メドレーの松坂琉星くんは全国大会決勝に残り8位入賞。と四中生が一段二段とレベルを上げた大会で活躍してくれたこと、敬意を表すとともにとてもうれしく思っています。

今のところ、日本一に一番近づいたのは全国8位が最高でしょうか。今日は女子野球で全国大会に出場している人もいます。また、VC天童のクラブ全国大会や、バスケットボールのワイバンズユースが全国大会に出場するようです。今後、スポーツに限らず日本一になるチャンスがある！という人はいますか？期待しています！

○さて、「名実ともに日本一の学校に」と言っていますが、このことに関して校長先生から2つ話します。

一つ目は、なぜ四中生にそういうこと望むかです。四中生には、日本一や世界一という大きな目標や夢をもって取り組むことで、自分の考えるレベルや取り組む姿勢を上げてほしいと考えているからです。

四中生の諸君にはより高いステージ、いわゆるNextStageを意識してほしい。今見ている景色と違う一歩上からの景色は、一回りも二回りも人間的に成長した見方ができると思うのです。

さらに、四中生は挑戦することの意識がとっても高まってきていますが、どちらかというと慎重派が多いのではないかと。失敗するのではないかと取り組むことに、二の足を踏む人がいるのではないかと思います。それは、危険を回避しようとする本能なので、大切なことです。しかし、何事も失敗を恐れずに挑戦しなければ、時代が急激に変化している今、新しいことは生みだせません。何度も何度も挑戦すること。失敗は成功の母であり。失敗の切り返しこそが夢をかなえる道であることをみんなに意識してほしいと思っているのです。

二つ目は、校長先生が思っている本当の想いです。本当は誰でも日本一になれるということ。誰もがすぐに日本一になれるということに気づき、日本一を目指し行動している四中生になってほしいと思っているのです。

なに？と思う人がいるかもしれませんが、

例えば、自分は日本一あいさつがうまいと。自分が決めることですからね。さあ、「あいさつ日本一の生徒がいる学校」とはどんな学校だと思いますか。

例えば、自分は日本一一生懸命清掃に取り組んでいる。さあ、そういう生徒がいる学校とはどんな学校だと思いますか。

例えば、自分は日本一応援を楽しんでいる。さあ、応援を日本一楽しんでいる生徒がいる学校とはどんな学校だと思いますか。

日頃のなんでもないこと、当たり前のことに目を向け、日本一の取り組みだと自負し、誇りを持っている生徒がいる学校って、素敵じゃないですか。すごくないですか。

二学期の79日間。自分はどんな日本一を目指したのか。そして、自分が日本一になった！といえるようにしてほしいと思います。合唱コンクールや体育祭などの行事もあります。

四中生の輝く「挑越」した姿がみられること、自信をもって取り組んだ清々しくもたくましい四中生の姿が見られることを期待し、2学期始業式の言葉とします。

四中生の文化的な活躍もみられますよ！

今回の表紙（題字・イラスト） 作者紹介

【題字】^{しぎはら}鳴原 わこさん（四中3年）

Q 作品の説明をお願いします。

A 文字のバランスを整えるところを工夫しました。「議」という文字は、大きすぎると全体のバランスが良くならないので、丁度良い大きさにするところを心がけました。

Q より良いまちづくりのために一言。

A 天童市には、魅力がたくさんあるので、「天童市っていいな」「住みたいな」と思ってもらえるようなまちにしたいと思います。

【イラスト】^{ごとう}後藤 紅愛さん、^{ごとう}後藤 菜子さん、^{おかざき}岡崎 ももかさん（四中3年）

Q 作品の説明をお願いします。

A 3人での合作となりましたが、8月をイメージするために3人が各々想像する海を描きました。一人一人の個性豊かな海が生まれました。

Q より良いまちづくりのために一言。

A 幅広い世代と関わるイベントを増やしてほしいです。



▲（写真左から）鳴原さん、後藤紅愛さん、後藤菜子さん、岡崎さん、夏らしいいきいきとした作品を提供いただき、ありがとうございます。

市政をもっと身近に！わかりやすく！

天童市議会だより

2025
8.15
No.189
6月定例会



イラスト作品名「海」（題字とイラストの作者紹介は、12ページをご覧ください）

漕ぎ出そう 叡智の大海へ

特集 より魅力ある天童市とするために 常任委員会行政視察